

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 2 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22510298

研究課題名（和文）

帝国／植民地近代とジェンダ 日本・韓国・台湾を巡る文化表象を中心に

研究課題名（英文）

Imperial/Colonial Modernity and Gender: On Circulating Cultural Representation in Japan, Korea, and Taiwan

研究代表者

池内 靖子（IKEUCHI YASUKO）

立命館大学・産業社会学部・教授

研究者番号：80121606

### 研究成果の概要（和文）：

本研究は、帝国／植民地期（1895-1945）の日韓台三地域に流通した物語やドラマの舞台化及び映画化に焦点を当て、そのプロセスにおける文化表象の混淆と差異化にジェンダー及びセクシュアリティの構築がどのように関連しているかを明らかにした。また、現代の韓国や台湾においても、帝国／植民地期における文化創造と交渉に焦点を当て、その時期を振り返る多くの小説や映画を生み出している。最終的に、本研究は、そのことの重要性に着目し、これら文化生産に対する考察を深めた。

### 研究成果の概要（英文）：

This research project focused on stories or dramas that were circulated and staged as plays or produced as films in Japan, Korea and Taiwan during the period of Japan's Imperial expansion and colonization of Korea and Taiwan (1895-1945). This study also made clear how the construction of gender and sexuality were related to the process of mixture and differentiation of cultural representations in the staging and film production of these dramas. Finally, many contemporary films or novels in Korea or Taiwan focus on cultural productions and negotiations during the imperial/colonial periods, and invite reflection on these times. This research project recognized the significance of the fact that contemporary films and novels deal with the imperial/colonial period, and delved deeply into these cultural productions with this in mind.

### 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文

科研費の分科・細目：ジェンダー・ジェンダー

キーワード： 帝国/植民地近代、 文化表象、 舞台化・映画化、 ジェンダー、 セクシュアリティ

## 1. 研究開始当初の背景

ここ数年、研究代表者は、アジア系女性アーティストによる身体表現を基盤とする演劇/パフォーマンス・アートについて研究してきたが、特に重点をおいて進めてきた演劇研究においては、西洋近代演劇の制度をモデルとした日本の近代演劇制度の創設が、文明化された国民の教養と娯楽のために、近代的な「帝国劇場」を建設し、「女優」を誕生させる、一種のナショナル・プロジェクト（帝国のプロジェクト）であったことを明らかにした（池内 2008）。この研究において、日本帝国のプロジェクトとしての近代演劇が、西洋列強の帝国主義や植民地主義、オリエンタリズム、ジェンダーと交差する中で、複雑に錯綜する政治性を持ちつつ成立することを明らかにしたが、植民地化された韓国と台湾において、西洋あるいは帝国宗主国日本からもたらされた近代演劇がどのように受容され、独自の演劇表現を生み出したかについては調査することができなかった。その他の先行研究においても、帝国宗主国日本と植民地期の韓国・台湾に廻流したドラマの内容や身体表現に則して、どう近代的ジェンダー、セクシュアリティが構築されたかということに踏み込んだ研究はされていない。植民地の韓国・台湾でも大衆的な人気を博し、舞台化・上演されており、文明化、帝国主義的文化統合に伴う性規範や言説の力を検証するために、当時の植民地の資料を収集し、帝国宗主国と植民地における小説・演劇・映画の廻流と変容について比較考察する必要があると考えた。

小説や物語の舞台化、映画化は、宗主国日本発のものもあれば、植民地韓国・台湾発のものもあり、それが帝国内を廻流する文化表象となっている。帝国宗主国と植民地を横断する文化交流は、非対称的な権力関係に規定されながらも、必ずしも宗主国からの支配的一方向的な交流ではなく、その回路は、予想以上に、双方向的かつ混淆的な文化交流に開かれていたということが、最近の国内外の帝国主義、植民地主義の批判的文化研究において明らかにされつつある。

本研究では、これら優れた先行研究に学びつつも、先行研究において十分に活用されていなかったジェンダーの批判的・理論的な視角から、帝国・植民地文化研究とジェンダー研究を交差させ、この三地域に廻流する文化表象、物語や身体表現、映画メディアの表現をより重層的にとらえ直すことを目指した。

## 2. 研究の目的

本研究は、「帝国/植民地近代とジェンダー 日本・韓国・台湾に廻流する文化表象を中心に」というテーマで、帝国日本とその植民地であった韓国・台湾を横断する文化研究の一環として、当時の日本・韓国・台湾における演劇・映画・小説等の表現メディアに焦点を当て、物語や身体表現、映像表現について、ジェンダー研究と植民地研究を交差させた複合的な視角から考察するものである。三地域に共通して流通した大衆小説やメロドラマの舞台化及び映画化に着目し、文化表象の混淆と差異化にジェンダー及びセクシュアリティの構築がど

のように関連しているかを明らかにし、帝国 / 植民地近代における文化創造と交渉を理論的にとらえ直す文化研究モデルを提示することを目的とする。

### 3. 研究の方法

日本帝国の植民地であった韓国・台湾に持ち込まれた他の作品の具体的な事例について、一次資料を渉猟する。さらに、植民地において新たに書かれた作品の舞台化、映画化について歴史的な一次資料を調査発掘することによって、そうした文化創造の場において、テキストと身体が、文明化、帝国主義的文化統合に伴う性規範や言説と関わってどのように構築されたかについてより掘り下げて考察する。

本研究は、研究代表者と1名の研究分担者（梁仁實）、及び2名の連携研究者（大西仁、李文茹）による共同研究として行った。

韓国と台湾における植民地文化研究者、及びジェンダー研究者との交流のネットワークを組織し、本研究課題にかかわって、資料発掘調査を行い、共同研究会、シンポジウムを組織する。

- (1) 20世紀初頭から第二次大戦期までの新劇、新派劇関係図書、植民地主義とフェミニズム・ジェンダー研究関連図書、映画メディア研究図書、帝国と植民地関連の文学研究図書、及び演劇のチラシ、映画のポスター、ビデオ・DVD、フィルム等の映像作品、資料を購入した。
- (2) 研究代表者は、本研究の目的に基づいて、研究分担者、研究協力者とともに共同研究会を開いた。
- (3) 植民地期以降の韓国映画・演劇及び、台湾の植民地期以降の映画・演劇についての資料を調査した。
- (4) 日・韓・台に流通した物語、映画、

演劇に関する調査分析を実施したが、その研究成果をまとめた。

### 4. 研究成果

これまでの先行研究では、帝国主義・植民地主義最盛期の19世紀後半から第二次大戦終結までの時期の文化について研究する場合、どちらかといえば、一国の文化を通時的な歴史的形態として、近代国民国家の発展の枠組みに閉じた視点から分析考察するものが多かったが、本研究の学術的な特色・独創性としては、当時の日・韓・台の地政学的な関連を切り離すことなく、共時的にとらえ直す文化研究モデルを提示することを目指した。

日・韓・台といった国民国家の枠組みに囚われない視角からの帝国・植民地文化研究は、帝国による植民地統合・支配という非対称的な力関係の中で、三地域の共時的連関性、緊密であると同時に相克に満ちた交渉があったことを検証した。

一つの具体的な成果として、2011年度立命館大学国際言語文化研究所連続公開講座に取り組んだことを挙げておきたい。本研究プロジェクトは、その第3回講座に「恋愛小説と映画をめぐる感覚変容」を設定し、帝国 / 植民地近代における恋愛小説、映画の表象と言説を事例に挙げ、感覚の変容を検証した。梁論文、「1930年代日本帝国内における文化「交流」は、韓国の古典的パンソリの物語が近代的視覚メディアである映画において、劇中劇として活用され、植民地における映画制作に決定的な重要性を持つことを明らかにした。『春香伝』は、帝国日本にも流通し、演劇や映画人の関心を引く作品として、舞台化され映画化された、帝国 / 植民地の近代に回流する文化交流現象の中心的位置を占める。梁論文は、20年代から30年代にかけて発達する映画

メディアにおける『春香伝』をめぐる日本と朝鮮の複雑な文化交流を検証した。

もう一つの成果は、台湾で、日本帝国統治下の台湾で起こった、台湾原住民の蜂起と帝国による徹底的な弾圧事件である霧社事件の地域でフィールドワークを行った。この事件は台湾の監督によって映画化(『セデック・バレ』2012)された。霧社事件や台湾植民地下の原住民について書かれた小説や物語は、台湾人作家や日本人作家によるものであれ、これまでも少なくはない。現代の日本人作家、津島佑子の小説『あまりに野蛮な』については、李の論文もあり、大西も短いエッセーではあるが、原住民の表象とオリエンタリズムの視点の関係についての鋭い論考もある。

今後の課題としては、現代において、帝国/植民地期を背景とした、あるいはその時期を振り返る作品が生み出されていることが明らかになったため、その点に注目し、より考察を深める必要がある。

以上の研究の成果は、国際、国内の学会、研究会において発表した。またそれらを論文としてまとめ、各研究所から出版している本や紀要に掲載した(以下参照)。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

池内靖子、「恋愛小説と映画をめぐる感覚変容」の「序文」『立命館言語文化研究』査読無、24巻2号、2013、49-54

梁仁實、「1930年代日本帝国内における文化「交流」：映画『春香伝』の受容を中心に」、『立命館言語文化研究』、査読無、24巻2号、2013、55-72

李文茹、「植民地台湾で歌われたモダンと自由恋愛」、『立命館言語文化研究』、査読無、24巻2号、2013、73-82

大西仁、「1920-30年代台湾における結婚/恋愛小説について」、『立命館言語文化研究』、査読無、24巻、2013、83-92

梁仁實、「日本テレビ映像の在日済州人表象」、韓国ソウル大学日本研究所編、『日本批評』、査読有、第8号、2013、80-117

梁仁實、「帝国日本を浮遊する映画(人)たち」、『国際高麗学会ソウル支部論文集』、査読有、14巻、2012、95-120

大西仁、「小宮山天香『聯島大王』論 明治二十年代における主体的男性像の形成」、『日本文芸学』、査読有、48号、2012、69-85

李文茹、「當代台灣與日本女性作家筆下的「殖民地」台灣 試論《風前塵埃》與《太過野蠻的》的女性記憶書寫」、『第六屆花蓮文學研討會論文集』、査読有、第6号、2012、257-280

李文茹、「植民地台湾における日本人農業移民—坂口子の移民三部作めぐって」、『日本研究』(韓国高麗大学)、査読無、2012、130-163、16巻

李文茹、「工藤節子、協働学習のデザインと参加 教師の役割」、『人文系列 東方文化 2 語言/文學 教學的理論與實踐』、査読有、第2号、2011、325-356

[学会発表](計20件)

発表者名：梁仁實、発表標題：The movie-watching experience of Korean residents in Japan/Japanese settlers in Korea、学会名等：Association for Asian Studies (AAS)、発表年月日：2013年3月23日、発表場所：San Diego (USA)

発表者名：李文茹、発表標題：六〇年代日本文學當中的「蕃地」文學：坂口坂口禊子の台灣書寫與第一人稱、学会名等：國科會人文處 99-100 年度外文學門專題計畫研究成果發表會、発表年月日：2013 年 3 月 23 日、発表場所：台北政治大学（台湾）

発表者名：梁仁實、発表標題：在日朝鮮人/在朝日本人の映画経験、学会名等：日韓二か国学術交流事業「植民地期韓国映画と日本映画の交流について」、発表年月日：2013 年 3 月 2 日、発表場所：立命館大学（日本）

発表者名：Y. Ikeuchi、発表標題：Soni Kum's video and performance works, 学会名等：British Association for Japanese Studies (BAJS)、発表年月日：2012 年 9 月 6 日、発表場所：University of East Anglia, Norwich (UK)

発表者名：大西仁、発表標題：日本統治期台湾における恋愛・結婚小説、学会名等：台湾日本語文学会、発表年月日：2012 年 4 月 21 日、発表場所：大葉大学（台湾）

発表者名：梁仁實、発表標題：戦前日本映画の内/外部にいた朝鮮(人)試論、学会名等：日韓二か国学術交流事業「植民地期韓国映画と日本映画の交流について」、発表年月日：2012 年 2 月 21 日、発表場所：漢陽大学（韓国）

発表者名：Y. Ikeuchi、発表標題：The Work of Three Women Artists: Korean Diaspora and the Politics of Translation、学会名等：The Aarhus Art Building - Centre for Contemporary Artにおけるシンポジウム”Imagine – micro strategies and visions in contemporary art” にゲストスピーカーとして報告、発表年月日：2011 年 11 月 3

日、発表場所：The Aarhus Art Building（デンマーク）

発表者名：梁仁實、発表標題：1930 年代日本帝国内における文化「交流」：「春香伝」の受容を中心に、学会名等：立命館大学国際言語文化研究所連続公開講座、発表年月日：2011 年 10 月 21 日、発表場所：立命館大学（日本）

発表者名：大西仁、発表標題：1930 年代の台湾における小説、学会名等：立命館大学国際言語文化研究所連続公開講座、発表年月日：2011 年 10 月 21 日、発表場所：立命館大学（日本）

発表者名：李文茹、発表標題：毛断・文明・恋愛と植民地台湾：1930 年代の閩南語流行曲をめぐる、学会名等：立命館大学国際言語文化研究所連続公開講座、発表年月日：2011 年 10 月 21 日、発表場所：立命館大学（日本）

発表者名：李文茹、発表標題：當代台湾與日本女性作家的「殖民地」台湾記憶：論《風前塵埃》與《太過野蠻》、学会名等：花蓮文学研討会、発表年月日：2011 年 9 月 24、25 日、発表場所：花蓮県（台湾）

発表者名：梁仁實、発表標題：帝国日本を浮遊する映画（人）たち、学会名等：The 10th International Conference of Korean Studies (ISKS)、発表年月日：2011 年 8 月 25 日、発表場所：University of British Columbia (Canada)

発表者名：Y. Ikeuchi、発表標題：The Powers of Mourning and Violence in the Works of Performance by Soni Kum、学会名等：国際演劇研究学会 (IFTR)、発表年月日：2011 年 8 月 11 日、発表場所：大阪大学（日本）

発表者名：李文茹、発表標題：津島佑子『あまりに野蛮な』試論、学会名等：台湾日本語文学会例会、発表年月日：2011年7月16日、発表場所：台北市（台湾）

発表者：大西仁、発表標題：対外進出の担い手とは誰か 小宮山天香『聯島大王』をめぐって、学会名等：日本文芸学会、発表年月日：2011年6月26日、発表場所：プール学院大学（日本）

発表者名：梁仁實、発表標題：在朝日本人と映画、学会名等：帝国日本の朝鮮 想像と文化ディスコースの再構成、発表年月日：2011年6月4日、発表場所：東国大学（韓国）

発表者名：李文茹、発表標題：〈わたし〉と台湾 戦後の坂口禔子の「蕃地」作品をめぐって、学会名等：2011年日本語・日本文学・日本文化学 國際學術研討會、発表年月日：2011年5月14日、発表場所：台北市（台湾）

発表者名：梁仁實、発表標題：在朝日本人と映画、学会名等：「移民の現代史」研究会、発表年月日：2010年11月13日、発表場所：京都大学人文科学研究所（日本）

発表者名：梁仁實、発表標題：『キムチを売る女』と『芒種』の間、学会名等：第1回東北アジア地域社会研究フォーラム、発表年月日：2010年9月13日、発表場所：延辺大学（中国吉林省）

発表者名：李文茹、発表標題：「満洲文学」作家牛島春子の「戦後文学」、学会名等：2010 東方文化學術研討會：中日台女性書写、発表年月日：2010年5月15日、発表場所：台北市（台湾）

〔図書〕（計4件）

著者名：梁仁實「解題 『映画新体制』と『映画旬報』」韓国映像資料院編、

出版社名：現実文化研究（ソウル）、書名：日本の映画雑誌からみる朝鮮映画 03、発行年：2012、総ページ数：344（担当頁：299-312 及び全体資料の翻訳）

著者名：梁仁實「解題 日本の映画ジャーナルと朝鮮映画をみる視線」韓国映像資料院編、出版社名：現実文化研究（ソウル）、書名：日本の映画雑誌からみる朝鮮映画 02、発行年：2011、総ページ数：375（担当頁：329-344 及び全体資料の翻訳）

著者名：梁仁實「解題 日本の映画ジャーナリズムとその特徴」韓国映像資料院編、出版社名：現実文化研究（ソウル）、書名：日本の映画雑誌からみる朝鮮映画 01、発行年：2010、総ページ数：368（担当頁：325-342 及び全体資料の翻訳）

Yasuko Ikeuchi, "Counter-Narrativity and Corporeality in Kishida Rio's *Ito Jigoku*," in *Performative Body Spaces*, edited by Markus Hallensleben. 出版社名：Rodopi, 発行年：2010、総ページ数：250（担当頁：105-115）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

池内 靖子（IKEUCHI YASUKO）  
立命館大学・産業社会学部・教授  
研究者番号：80121606

(2) 研究分担者

梁 仁實（YANG INSIL）  
岩手大学・人文社会科学部・准教授  
研究者番号：20464589

(3) 連携研究者

大西仁（ONISHI HITOSHI）  
台湾の東海大学日本語文学系・教授

連携研究者

李文茹（LEE WENJU）  
台湾淡江大学・教授